

「援助する・される」から「共にある」関係への転換

—親子関係再構築支援の観点から—

A shift from "We are the supporters, and you are the supported" to a relationship of "being together." :
From the perspective of supporting the reconstruction of parent-child relationships.

中村 泰子

NAKAMURA Yasuko

大阪市中心中央こども相談センター

Osaka City Central Child Guidance Center

Key words: 心理支援ツール, 非言語的アプローチ, 心理支援プログラム

はじめに

児童虐待対応では介入から支援が始まることが多く、支援が対立的になる傾向がある。支援現場では、多様化のスピードが加速し、支援方法のアップデートが求められ、経験知の蓄積が難しくなっている。心理支援ツールは、実践の中で非言語的アプローチとして開発され、親子関係再構築支援での活用も整備が進んできている(中村 2024a, b)。ツールを活用した心理支援プログラムの取組を紹介し、めざす方向性を探っていききたい。

心理支援ツールとは

心理支援ツールは、言語化や表現を苦手とするこどもへの心理支援や、回復プロセスの進みにくい保護者支援での工夫と試行錯誤が開発背景となっている。特長として、言語による対話が成立しにくい場合にも取り組み、警戒心や不安、心理的抵抗感を低減し緊張が緩和されやすい効果がある。「いま・ここ」の反応が引き出され、主体性を回復する工夫や、興味や意欲を引いて楽しめるようなゲーム要素が盛り込まれている。見る・聞く・触るなどの感覚を伴う体験、内発的な「気づき」が得られる手がかりとなって、侵襲的にならない程度の安全で小さなステップアップが可能となる。ツールは多様な形態があり、個別ニーズに沿ってカスタマイズできる余地や柔軟性があり、自由度が高い。進め方や内容は具体的で、立場や文化を超えて取り組み、主体性の回復プロセスが促進される。実践取組での検討を重ね、保護者支援プログラムや親子プログラムの形が整ってきた。児童福祉現場のほか関係構築を目的とした活用や、ラポール形成にも有用と考える。

心理支援プログラム

再統合支援では、安全を優先して親子分離となった後、家族やこどもが、家族の在り方を方向づけていく主体性を取り戻し、こどもの成長とともに変化する関係性をほどよく維持していけることが目標となる。家族に当事者意識や相談意欲、動機づけが乏しい場合は特に、警戒や緊張を和らげる配慮や工夫が欠かせない。取組実践において、トラウマインフォームドケアや暴力加害臨床、支援者支援、デザイン思考など多角的な視点から、要素や内容の精査と改良を重ねた。現在、ツールを活用した心理支援プログラムには、保護者むけと親子むけ(図)がある。トラウマ臨床における並行プロセスの観点からは、対立的で膠着状況となった困難な局面こそ、関係性や思考の流れが一方通行的にならずに相互的・循環的になるよう心掛け、主体性を引き出す仕掛けや仕組みが必要となる。ツール活用により、支援者は介入的・指導的な立場ではなく、一緒に取り組むメ

ンバーとして居合わせることになる。対立関係に陥りやすい支援者と当事者、関係のこじれた親とこどもが、ツールやプログラムを共に体験することは、内発的な気づきや認識変容、関係構築促進の効果があり、「援助する・される」の在り方から、「共にある」関係への変化・転換につながる。

■子育て応援プログラム
(ペアレント・プログラム)
親子関係を再構築し、「笑顔で子育て」を応援します！

①家族イメージ・子育て観
②現状を知る
③気持ちに気づく
④認識・ものの見方
⑤コミュニケーション

・全5回（1回約60分）です。
・事前にオンラインセッション、終了後に家族支援会議を実施することがあります。支援会議の参加者は、保護者の方、お子さん、担当者です。
・プログラム内容は、変更されることがあります。

担当：親子再統合（ ）
連絡先：XXXX-XXXX-XXXX

プログラムは3回実施します。
おうちの人といっしょに来てほしい。

日 テーマ わかりやすいマーク

1	好きなもの 大切なもの	月 日	😊😊😊😊😊😊
2	気持ち	月 日	😊😊😊😊😊😊
3	ルールを守る	月 日	😊😊😊😊😊😊

「こんなふうになりたいな」
を書きましょ

説明を聞いて参加します。

年 月 日 名前

尊重の・楽しくなる
ネーミングで

回数やテーマは
カスタマイズ可

主体性を尊重できる
選択肢

参加者による
目標設定

図. 保護者プログラム（左）と親子プログラム（右）

めざす方向性

こじれた関係性の背景には、無意識下の傷つきや葛藤があり、支援者が代弁し補完しすぎる形で親子関係調整が進むと、当事者の自主性を損ない、支援から離れられなくなることも懸念される。支援につながり社会資源を活用することが、当事者の主体性や自立を損ねないよう、支援が一時的で補完的な効果にとどまることなく、「する・される」という支援関係の先にある持続可能な内的資源への気づきや外的資源としての関係再構築につながるものとなるような姿勢を大切にしたい。

ワークショップのプログラム

1. イントロダクション(趣旨説明と支援プログラム紹介)
2. グループでのプログラム体験(ツール体験)
3. ディスカッション(意見交換とリフレクション)
4. 全体を通しての質問・感想など

プログラムやツールは、「共にある」ための橋渡しのものと考えています。ワークショップでは、参加してくださる方々との対話や「共にある」時間を大切にできる運営を心掛けます。

参考資料

中村泰子(2024a) 心理支援ツールを活用した子育て応援プログラム: デザイン思考からの親子関係再構築支援. 対人援助学会第 16 回大会ポスター抄録

中村泰子(2024b) 心理支援ツールを活用した親子プログラム: 児童相談所における親子関係再構築支援. 対人援助学会第 16 回大会ポスター抄録